Galois対応しノKは有限次Galois拡大であると仮定する。 このとき、Gal(L/K)={LのK上での体の自己同型全体}について, |Gal(L/K)| = [L:K]

でかつ以下の一対一対応か得られる:

$$\{L/K \circ 中間体全体\} \longleftrightarrow \{Gal(L/K) \circ 部分群全体\}$$

$$M \longmapsto \{\sigma \in Gal(L/K) \mid \sigma(a) = a \ (a \in M)\}$$

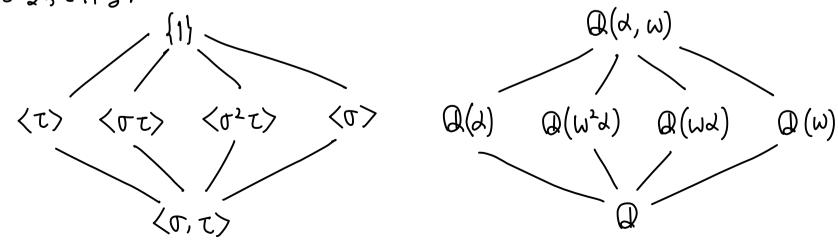
- (1)この対応は包含関係を逆転させる
- (2) L/LH + Galois 拡大になり、Gal(L/LH)=H. 特に[L:LH]=|H|.
- (3) LH/K が Galois 拡大 ⇔ H は Gal (L/K)の正規部分群
- (2)より, 位数 rの Gal(L/K)の部分群 H に 対 応する L/Kの部分体 M は [L:M]=rでかつ $\sigma(\beta)=\beta(\beta\in M,\sigma\in H)$ をみたすものになる、

よく使われる有限群の記号

Sn=(n次の置換群) DAn=(n次の支代群)={n次の偶置換全体} $C_n = (位数nの巡回群) = \langle \sigma | \sigma^n = 1 \rangle \cong \mathbb{Z}/n\mathbb{Z}$ $D_n = (位数2nのn次の二面体群) = \langle \sigma, \tau | \sigma^n = \tau^2 = 1, \tau \sigma = \sigma^1 \tau \rangle$. $\mathbb{D}_3 \cong \mathring{S}_3$, $\nabla \leftrightarrow (1,2,3) = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & 3 & 1 \end{pmatrix}$, $\tau \leftrightarrow (1,2) = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 2 & 1 & 3 \end{pmatrix}$. $\vec{S}_3 = \{1, (1,2,3), (1,3,2), (1,2), (1,3), (2,3)\}$ $= \left\{1, (1,2,3), (1,2,3)^2, (1,2), (1,2,3)(1,2), (1,2,3)^2(1,2)\right\}$ $C_3 \cong A_3 = \{1, (1, 2, 3), (1, 2, 3)^2\}$

問題7-1] F(x) = $\chi^3 - 3$, $d = \sqrt[3]{3}$, $\omega = \frac{-1+\sqrt{-3}}{2}$ とかく、以下を示せ、

- (1) F(x) はめのQ上での最小多項式である。
- (2) F(x)の Q上での最小分解体は Q(x) に等しくない。
- (3) F(x)のQ上での最小分解体はQ(x,ω) = Q(d,√-3)に等Lい、以下, [Q(d,ω):Q]=6を認めて使ってよい, (問題3-5,4-2の解答例も参照)
- (4) $Q(\alpha, \omega)$ の体の自己同型 T, T を 次のように定義できるこ $T(f(\lambda)) = \omega d (f(\lambda) \in Q(\omega)[\lambda]), T(g(\omega)) = g(\omega^2) (g(\lambda) \in Q(\lambda)[\lambda]).$
- (5) $Gal(Q(ム, \omega)/Q) = \langle \sigma, \tau \rangle \cong D_3 \cong S_3$ \checkmark 特に(b)をやってほしい、
- (b) Gal(Q(d,w)/Q)の部分群全体とQ(d,w)/Qの中間体のGalois的応は以下のようになっている:



- (1) F(x)はdのQ上での最小多項式である。 F(x)のすべての根かっ
- (2) F(x)のQ上での最小分解体はQ(x)に等しい、 Q(x)にきまれる。
- (3) Q(d)の体の自己同型 ひを の(f(d))=f(√2-反) (f(d)∈Q(以)定義できる、
- (4) $Gal(Q(A)/Q) = \langle \sigma \rangle \cong C_4$
- (5) Gal(Q(d)/Q)の部分群全体とQ(d)/Qの中間体全体のGalais対応は以下の図のようになっている:

